

2023年度見通し

2023年度の事業環境は、インフレの拡大や地政学リスクの高まりなど、上期を中心に不透明な状況が継続すると見込まれますが、当社グループが事業活動を展開する事業領域においては、下期以降、回復基調に向かうと認識しています。一方で、社会・産業構造の変化が進み、長期ビジョン「SF2030」で捉える社会的課題（カーボンニュートラルの実現・デジタル化社会の実現・健康寿命の延伸）や、地政学リスクを背景としたグローバルでのサプライチェーン再編の動きはさらに顕在化し、当社グループにとって多くの事業機会が出現すると認識しています。

当社グループでは、このようなチャンスとリスクが混在する事業環境下で、中期経営計画「SF 1st Stage」で設定した戦略を着実に遂行し、収益体質のさらなる強化と着実な成長を目指します。また、長期ビジョンの新たな価値創造に向けて、制御機器事業やヘルスケア事業を中心とした成長投資を積極的に実行します。

上記の取り組みを進めることで、3期連続での増収増益を見通します。

なお、2023年度は、売上高は8,900億円（2022年度比1.6%増）、営業利益1,020億円（同1.3%増）、売上総利益率は46.6%（同1.6ポイント増）を計画しています。

	2022年度	2023年度	増減率
売上高	8,761億円	8,900億円	+1.6%
売上総利益（売上総利益率）	3,939億円 (45.0%)	4,145億円 (46.6%)	+5.2% (+1.6P)
営業利益（営業利益率）	1,007億円 (11.5%)	1,020億円 (11.5%)	+1.3% (+0.0P)
当社株主に帰属する当期純利益	739億円	745億円	+0.9%
米ドル平均レート	135.2円	130.0円	△5.2円
ユーロ平均レート	140.9円	140.0円	△0.9円
人民元平均レート	19.7円	19.0円	△0.7円

	売上高			営業利益		
	2022年度	2023年度	増減率	2022年度	2023年度	増減率
制御機器事業 (IAB)	4,857億円	4,900億円	+0.9%	858億円 (17.7%)	880億円 (18.0%)	+2.5% (+0.3P)
ヘルスケア事業 (HCB)	1,421億円	1,460億円	+2.7%	160億円 (11.3%)	170億円 (11.6%)	+6.1% (+0.4P)
社会システム事業 (SSB)	1,073億円	1,140億円	+6.3%	75億円 (7.0%)	90億円 (7.9%)	+20.2% (+0.9P)
電子部品事業 (DMB)	1,389億円	1,390億円	+0.1%	155億円 (11.2%)	155億円 (11.2%)	+0.0% (△0.0P)
本その他 (消去調整含む)	21億円	10億円	△52.0%	△242億円	△275億円	—
業績変動リスク	—	—	—	—	—	—
合計	8,761億円	8,900億円	+1.6%	1,007億円 (11.5%)	1,020億円 (11.5%)	+1.3% (+0.0P)

制御機器事業 (IAB)	
売上高の状況	<p>製造業全体の設備投資需要は、インフレ等の影響もあり不透明な状況ではありますが、注力する半導体製造装置・電気自動車 (EV) ・二次電池業界の設備投資需要も堅調に推移すると見えています。</p> <p>このような状況の中、受注残の正常化の取り組みを着実に実行するとともに、注力業界を中心にソリューションビジネスの拡大を引き続き加速していきます。</p> <p>これらの取り組みにより、次期の売上高は4,900億円(当期比0.9%増)と当期比で増加を見込みます。</p>
営業利益の状況	<p>売上高の増加や生産性の向上により、次期の営業利益は880億円(当期比2.5%増)と当期比で増加を見込みます。</p>
ヘルスケア事業 (HCB)	
売上高の状況	<p>中長期的な慢性疾患患者数の増加傾向がグローバルで継続する中、中国での個人消費の回復もあり、血圧計などの需要はグローバルで増加すると見えています。このような中、各エリアにおけるオンラインチャネルでの販売強化に加えて、新興国における需要拡大を的確に捉えることで、次期の売上高は1,460億円(当期比2.7%増)と当期比で増加を見込みます。</p>
営業利益の状況	<p>部材価格高騰の影響が継続するものの、売上高の増加に加え、価格適正化の取り組みを継続していくことで、次期の営業利益は170億円(当期比6.1%増)と当期比で増加を見込みます。</p>
社会システム事業 (SSB)	
売上高の状況	<p>エネルギーソリューション事業では、エネルギー価格の高騰や補助金支援の継続などにより住宅・産業領域での再生エネルギー関連に対する需要は堅調に推移すると見えています。駅務システム事業では、鉄道利用者数の回復に伴う顧客の設備投資が堅調に推移すると見えています。これらの需要に迅速に対応して、製品とサービスを組み合わせたソリューションを提供することによって、次期の売上高は1,140億円(当期比6.3%増)と当期比で増加を見込みます。</p>
営業利益の状況	<p>売上高の増加や生産性向上により、次期の営業利益は90億円(当期比20.2%増)と当期比で大幅な増加を見込みます。</p>
電子部品事業 (DMB)	
売上高の状況	<p>民生向け需要は上期を中心に低迷すると見えています。一方で、注力する太陽光発電や蓄電などのエネルギー関連業界や半導体検査装置関連業界での需要獲得に向けたソリューション提案などの取り組みを加速することで、次期の売上高は1,390億円(当期比0.1%増)と当期比で横ばいを見込みます。</p>
営業利益の状況	<p>原材料価格高騰の影響などが継続する中で、価格適正化や生産性向上に引き続き取り組むことにより、次期の営業利益は155億円(当期比0.0%増)と当期比で横ばいを見込みます。</p>